

令和 5 年度補正予算 FAO 向け案件「水関連の災害への対応：東アフリカにおける過剰水の緩和と最適化（対象国：ケニア、ルワンダ）」におけるフォローアップ調査

9 月 24 日から 25 日にかけて、当代表部稲垣書記官は、令和 5 年度 FAO 向け当代表部補正予算案件「水関連の災害への対応：東アフリカにおける過剰水の緩和と最適化（対象国：ケニア、ルワンダ）」におけるフォローアップ調査のため、当地 FAO 事務所の招待により、ケニアに出張しました。小規模ため池ダム導入予定地の村長から、「ダムの導入は単発ではなく、通年での生産活動において持続可能性があり、結果的に農産物の増産、家畜への水分供給にも繋がり、大変有り難い支援。また、日本からの同村の支援は初めてで、同村では、給水施設や電化の接続がなく、今もなお、子供や女性が時間をかけて遠くの池や川へ水を汲みにいかなければならなかったが、ダムが出来ることにより、水汲み場への行く時間が減り、子供達が勉強に費やす時間を創出できる」と述べられた。カチエン地区の農家からは、「農家より、コメの種子を貰い、コメを育て、その獲得したお金で牛2頭を購入し、ミルクの自家採取に成功。顧客に販売できるような持続可能性をもたらしたい」と述べられた。引き続き、当代表部としてもフォローアップを実施する。



ダム導入予定地コミュニティー



コメの種子配布先農家



貯水槽導入先コミュニティー



プロジェクト中間ワークショップ